

番組企画書

タイトル

ボクには殺せない

～ドイツ・兵役制度と生きる18歳～

企画

甲南大学文学部社会学科

松本 章伸

兵役制度の中で揺れる、若者の姿がある。

「争い」をやめるために、自らに正直であるために、声をあげた若者の選択とは――

Q, 「自由意志ってすごいよね?!

「まあね……。どうだろう～」とはにかみの笑みを浮かべながら答える。

ドイツの都市、ケルン郊外に住むトーマス・オルセン君（18歳）。ドイツ人の父親、日本人の母親との間に、3人兄弟の末っ子として生まれた。「恥ずかしがり屋で、あまえん坊。18歳になった今でもトミーは変わらないわね」と二人顔を見合わせながら話す母、昌子さん（47歳）。心の中にそっと溶け込み、やさしく微笑みかけてくれるような存在だ。現在彼は、『障害者福祉施設』で自由意志によるボランティアをしている。

◆ドイツ — 兵役制度

兵役制度。満18歳以上の男性に8ヶ月間課せられる義務がドイツにはある。つまり、ドイツの若者たちは、満18歳までに「人を殺すことができるか、または殺されることができるか」を真剣に考えなければならない。**兵役義務に就くことが良心（宗教や信条）に相反する時は、兵役を拒否することもできる**。しかしその場合には国内・外でおよそ1年間の代替役務を行うという条件付である。**兵役を拒否した若者は「良心的兵役拒否者」と呼ばれている**。現在では年間約70%のドイツ青年が**兵役を拒否し**、その数は約13万3000人にまで及んでいる。

◆省かれた兵士たち

「ミリタリーな感覚はボクには似合わない」と話すトーマス君。

兵役の申請書が届く17歳の頃から”**兵役には就かない**。戦争の練習はいやだ”と心に決めていた。しかし、彼の元に届いたのは、申請書でなく**兵役免除**の知らせだった。彼は視力が悪く、日常生活でコンタクトレンズを使用している。このことが原因となって、**兵役が免除**となったのだ。彼の友達の数名もアレルギーや骨組みの異常によって彼と同じように**兵役を免れた**という。

このように、現在**兵役制度**に変化がみられる。身体に軽度の疾患が認められる場合、**兵役の義務に就かなくてもよい**ようになった。本人が「どうしても**兵役に就きたい**」と希望するのであれば、**兵役に就くことも可能**である。しかし、本人がそう望まないのなら**兵役に就かなくてもよい**。もちろん**兵役拒否**の代替役務にも就く必要はない。

◆18歳の選択

トーマス君 「先にトレーナを着ますか？」

身障者Aさん「……………」

介護対象者からの返事はない……………。

元々**兵役**を拒否して、代替役務をしようと思っていたのだからということで、迷わず**自由意志**による**ボランティア**を選んだ。『障害者福祉施設』で働き始めて5ヶ月。日々相手との向き合い方に悩んでいると話す。どこまでやさしく接すればいいのか、どこまで厳しく接すればいいのか、彼の苦悩は続く。それでも彼は言う。「ボランティア期間が終わっても、また海外で同じような仕事がしたい」と。

◆番組のねらい

兵役義務が制度化されて早67年。情勢の変化に伴って**兵役制度**も変化しつつあるといってもいい。**兵役拒否者**の増加に拍車をかけるように2001年の米国での同時多発テロ以降、拒否をする若者が増えている。増加の一途をたどる**兵役拒否者**の数と本来の**兵役に就く**人の数との比率がなるべくひらかないようにするために、今回の取材対象者のような「**兵役免除者**」を頻繁にだしているのだというドイツ国民の声も多々ある。それでも制度は続いている。

兵役制度の最前線をいく彼の生活に密着することで、制度を踏まえた現在の世界情勢を見つめ直し、その中で必死に生きる、国籍・人種を越えた若者の姿を伝えたい。

12/11の企画書

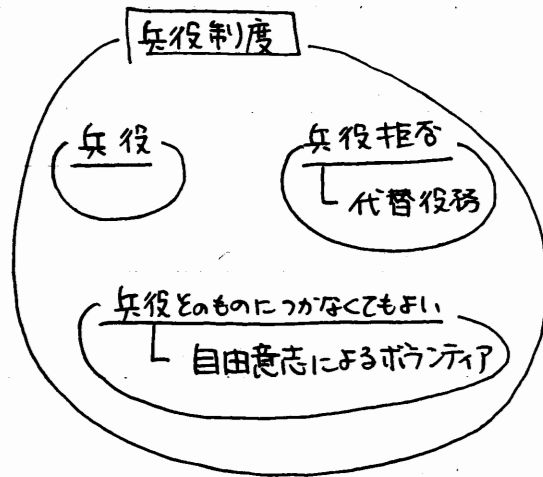
○ 人の文章。悪くはないが いまいち...

○ 「争い」、「人を殺すことができるか、または殺されることができるか」という言葉がうつく。

取材対象者から「殺す」と「殺さない」というようなイメージは感じられたい。本人と言葉との間にギャップがある。

○ 今回の取材対象者は特別、特殊。
視聴者からして今回の取材対象者を理解するためにはある程度の助走が必要。
日本に兵役制度がないから余計に理解に苦しむだろうと予想される。

→ 理解しやすいように映像に説明ばかり入れてしまうと、人間味のある作品はできなくなる。



○ 企画そのものに問題?!

○ 一人だけでおしるこには問題ない。⇒ かなりの技量を要するはず...
彼一色。ていうのは...

改善策

○ 彼一色でおしきろうとせずに、109人をもいくつか提示する。

- ex) ・日本で代替役務
- ・ドイツで代替役務
- ・これから兵役につこうとしている人 or ついてる人
- ・自由意志によるボランティア

50%以上が拒否しているのになぜ兵役に就こうとするのか?

こんな人たちが撮り手となる文章を入れる。
仕立て直さず

- ① 兵役に就いている人、これから就く人を映すことで対比できる。
- ② 兵役についている人、兵役代替役務をしいる人との対比。

日本におきかえてみた場合、無償労働によるボランティア等とリンクして考えやすいような文章をつくるべき。後程(詳しくは)後述(どうするか) 選択

① 11/11 OK! ② 11/11/11 ドイツ・兵役制度と生きる18歳
に 対比に 微妙な言葉のニュアンスを換当!!